

ロベルト・バジヨ

【「PKを外すことができるのは PKを蹴る勇気を持った者だけだ」考え方一つで、世界がガラッと変わる】

今日は、ロベルト・バジヨというサッカー選手の話をしていきます。

サッカーワールドカップ1994年アメリカ大会の決勝戦はブラジルとイタリアの対戦となりました。ブラジルはロマーリオ、イタリアはバジヨ、この両エースがチームを引っ張り決勝で戦うことになりました。ロマーリオは決勝まで4得点、バジヨは5得点を上げ、チームを牽引してきました。

優勝候補に上げられながら調子でないイタリアは、グループリーグ3位になり、決勝トーナメント進出16チーム中、最下位の16番目で決勝トーナメント進出を果たしました。

そして、決勝トーナメント1回戦のナイジェリア戦は、後半43分まで0-1でリードを許す展開となり、このままでは、イタリア1回戦敗退の危機でした。これを救ったのがロベルト・バジヨでした。後半43分に同点ゴール、さらに延長10分に逆転ゴールを挙げ、イタリアを1回戦敗退の危機から救い出します。

さらに、準々決勝のスペイン戦では後半42分に勝ち越しゴール。

準決勝のブルガリア戦では2ゴールを挙げる活躍を見せ、ついに決勝進出を決めるのです。

ロベルト・バジヨがイタリア代表で得点を決めた試合は22試合。その22試合の戦績は18勝4分で“バジヨが点を決めれば負けない”神話を持っていました。

決勝戦は両チーム得点がなく、延長戦でも決着がつかず、ワールドカップ史上初のPK戦で優勝が決まると言う過酷な戦いとなりました。

そして、3対2のPK戦は最後のキッカーが外すとイタリアが負けるという状況になりました。ここで登場したのがバジヨです。いくつものイタリアの危機を救ってきたバジヨに期待がかかりました。

結果は、バジッョの蹴ったボールはゴールを大きく外し、ブラジルの優勝となりました。

この時以来、多く人は手のひらを返したように、バジッョを非難するようになります。負けた原因の全てがバジッョにあるような非難もありました。

そして、試合後バジッョがいった言葉がこれです。

「PKを外すことができるのは PKを蹴る勇気を持った者だけだ」

負け惜しみのように聞こえますが、大会直前にけがをし、過酷な気候の中イタリアを決勝戦まで導いたエースの言葉です。多くのファンの期待を一身に背負い、弱音を吐くことができない状況の中で、それでも逃げずにPKを蹴った人間の言葉です。

私は当時この言葉を聞いて、PKを外したバジッョを責める人間ではなく、バジッョの勇気を讃える人間になりたいと思いました。

この2学期勇気を出して挑戦をした人を私は多く見ました。小さな挑戦とか大きな挑戦とかは関係ありません。自分を少しでも成長させようとしたこと全てが挑戦です。人のためになると思って行った行為全てが挑戦です。そして、友達のよいところを認め伝えるということも大事な挑戦でした。さらに、そういった全ての人の挑戦を讃える事が、また大事な勇気であり、挑戦です。そういう2学期を3年生を中心に作ってくれたと私は思っています。

では、ロベルト・バジッョを言葉もう一つ紹介して話を終わりにしたいと思います。

「今を戦えない者に、次とか来年とかを言う資格はない」

今を大事にしてください。今の積み重ねが未来を作っていくということです。